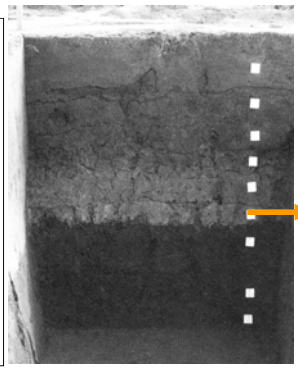
堂地西（どうぢにし）遺跡

調査期間：昭和59年4月～60年3月（1984～85）
発掘調査面積：約10000㎡
立地：標高約50m前後の台地上
学内の位置：産学連携センター・馬場周辺

発掘調査遠景、1984年

■調査概要
A・B・C区の3ヶ所の地区を調査
・後期旧石器時代のキャンプ地跡（A区・C区/集石8、紀元前2万～1万6千年前頃）
・縄文時代草創期～早期のキャンプ地跡（A区・B区/集石13、紀元前1万2千～7千年前頃）
・弥生時代後期集落（A区/竪穴住居跡2、紀元1世紀頃）
・古代～中世の集落（A区/建物数不明、平安～鎌倉時代）

■展示資料：後期旧石器・縄文時代草創期石器
●遺跡の概要：A区の姶良丹沢火山灰層（AT）直上から、剥片尖頭器やナイフ形石器などからなる旧石器文化層を検出し、多数の集石（石蒸し料理跡・下図参照）遺構を発見しました。石器は剥片尖頭器・ナイフ形石器・彫器・掻器・剥片など約200点。このほか、縄文時代草創期の土器・石器も出土。狩猟・採集を生業とし、遊動生活を営んだ旧石器～縄文時代初期の典型的なキャンプ地であった。



土層断面写真

集石遺構

パプアニューギニアの石蒸し料理

細石刃はヤリ状に加工した動物の骨や木の側面に溝を掘り、そのなかはめ込んで使用した（植刃器）

剥片尖頭器

石刃

掻器

彫器

局部磨製石斧

細石刃

■展示資料
●後期旧石器時代の石器群
・剥片尖頭器：鋭い刃先をつくりだし、ヤリ先として使用（凝灰岩質砂岩）
・掻器：皮と肉のあいだにある脂肪をとり、皮なめしになどに使用（黒色頁岩）。
・彫器：細部加工の「切る」・「削る」に使用（凝灰岩質砂岩製）。
・石刃：石核から剥離した縦形の剥片。各種の石器の原材料となる（花崗質砂岩）。
●後期旧石器終末期～縄文時代草創期の石器群
・局部磨製石斧：打製石斧の刃先部分だけを砥石で擦ったもの（凝灰岩質砂岩）。
・細石刃：長さ2・3cm、幅1cm未満の小型石器。側面に鋭い刃をもつ（黒曜石）。上図参照